

## 第3回奈良 ESD 連続セミナー概要報告

奈良教育大学 北村 恭康

開催日時 平成30年7月5日(木)

会場 奈良教育大学次世代教員養成センター2号館多目的ホール

参加者 大西・圓山・阿彌・乾(飛鳥小)、樋口・三木(都跡小)、中澤哲(平群北小)、河野(附属小)  
蔵前(真美ヶ丘第一小)、堀口(奈良学園小)、島(郡山西小)、今井( )、  
中澤敦(きんき環境館)、後藤田(成蹊大)・北村(奈良教育大)  
桑・谷垣・片山・藤井・阿部・山田・丸本・藤本・西城・上田(奈良教育大：学生)  
【新たな学生と教員のマッチング】

堀口-阿部、蔵前-上田

内容

### 実践事例の検討

#### ① 奈良市立飛鳥小学校 阿彌 美央先生

奈良町探検 — 奈良町の「ひみつ」を知りたい —

良い点 ・地域が子どものフィールドになっている。  
・ガイドブックの作成で、外部に発信している。

↳ 伝えたいことを発信できた。

・自分の住んでいる地域を見直しできる。

疑問点 ・調べるグループ分け



身代わり猿グループ・からくりおもちゃ館グループ  
町名の看板グループ・元興寺グループ

「もの」で構成している。

住んでいなければわからないことも多くあるので、住民の視点も大切にしなければならない。

⇒ 人にもフォーカスする必要がある。

#### ①得られる ESD の視点

連携性 (観光客も住民も奈良町を大切にしていることから)

公平性 (残ってきたものを未来につなげる)

#### ②ESD の資質・能力

未来的思考 (自分たちはどんなことができるのか)

住民にインタビューが必要

コミュニケーション能力

#### ③SDGs の何に貢献できるか

11: 住み続けられる街づくり

4: 質の高い教育

#### ④ESD の価値観

人と人とのつながり

世代間の公正



② 平群町立平群北小学校 中澤 哲也先生

地域のお祭り ～平群に伝わる勧請縄を通して～

勧請縄 古来悪霊や疫病が村に入らないように阻止するとともに、五穀豊穡や子孫繁栄などを願って村の入り口に縄(勧請縄)を張った、民俗行事。

- ・ 1月3日に村の男たちが縄をなう。女性は昔炊き出しなどをしていたが、今はしていなく見ている。
- ・ 見るのが楽しみ。
- ・ 女の人たちは綱に触っていない。
- ・ 村の若い人が老人から教わりながら行っている。
- ・ 楽しそうにやっている。
- ・ 藁は地元のものを使っているが、農家の減少でこの先困ることになるかもしれない。

良い点 ・子どもが目にしてはいるものだが「なに」という疑問がわいてくる教材である。

・地域の人のために頑張っている様子がわかる。

疑問点 ・作っているのは一年で数日なので人とのかかわりが見えにくい

写真より VTR のほうが良いかも



①得られる ESD の視点

連携性 (町の安全を願って地域住民が協力しながら行っている)

公平性 (女性が一緒になって作れない、触れられない点に問題があるのではないかと)

・民俗行事なので難しいが、地域住人の考えも聞く必要があるのではないかと。

・地域の人のお話・・・昔からの伝統なので、自分たちの代で変更するのは怖い。

責任性 (勧請縄を守り残していこうという姿勢)

②ESD の資質・能力

未来 (世代間を超えてみんな幸せでありたい)

協力 (地域住民の幸せを願って、みんなで勧請縄を作り上げている)

批判 (女子が勧請縄を作るのに参加できないことから、地域の民俗信仰的なこともあるが、話し合う必要があるのではないだろうか)

③SDGs の何に貢献できるか

5: ジェンダー平等を実現しよう

11: 住み続けられる街づくり

17: パートナーシップ

④ESD の価値観

地域住民のつながり、世代間の公正



※次回は8月21日(火) 19時より 次世代教員養成センター2号館多目的ホールにて行います。